



「津」とは港のことだぞ!

若宮山古墳群 塩津丸山古墳群

県指定史跡

古墳時代

(1800年前～1400年前)

港と古墳の関係



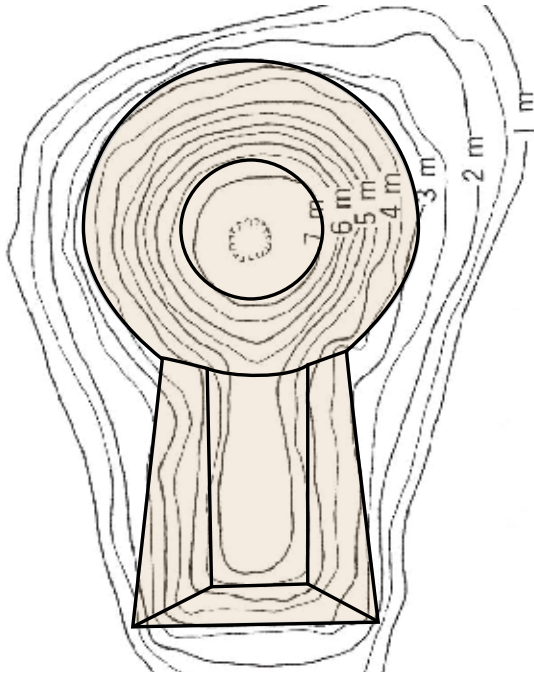
塩津丸山古墳群は西浅井町塩津に、若宮山古墳は湖北町山本にある古墳です。それぞれ「塩津浜」や「尾上」といった、古くはとても重要だった港（津）の近くにつくられており、いずれの古墳も琵琶湖を利用した水上の交通に重要な役割を果たした豪族の墓であると考えられます。

長浜市の遺跡 3

長浜市西浅井町塩津中
昭和57年3月31日指定
長浜市湖北町山本
昭和40年5月24日指定

古墳の特徴

◆ 若宮山古墳



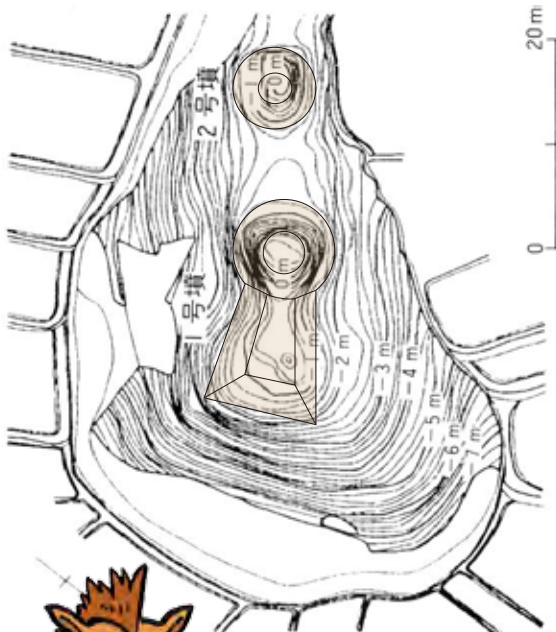
若宮山古墳の推定復元図

若宮山古墳は全長が約49mの前方後円墳^{ぜんぽうこうえんぶん}です。埴輪^{はにわ}と葺き石^{ふきいし}の両方を備えており、その整った形からも近畿^{きんき}地方^{ちほう}の中央の勢力の影響^{えいきょう}を強く受けていると考えられる古墳です。

同じ「前方後円墳」でも時代や地域などによって細かい点で様々な違いがあることがわかります。

発掘調査が行われていないため、どのようなものが副葬品^{ふくそうひん}として納められていたかはわかりませんが、埴輪^{はにわ}などから古墳時代のはじめごろから中ごろにかけてつくられたと考えられています。

◆ 塩津丸山古墳群



塩津丸山古墳群の想定復元図

しおづまるやま
塩津丸山古墳群は、前方後円墳1基と円墳3基^{えんぶん}からなる古墳群です。

前方後円墳である1号墳は全長約21.5mで、埴輪や葺き石は見つかっていません。円墳の2号墳は1号墳のすぐそばに作られ、寄り添っているようにも見えます。もしかしたら1号墳に葬^{ほうむ}られた人の家来にあたる人の墓であったのかもしれません。



塩津丸山古墳群の現在の状況



古墳と古代の港



古墳と湖上の交通

鉄道や自動車がない時代には、人や動物が荷物を背負って歩くよりも、船に乗せて運んだほうがたくさんの荷物をより早く運ぶことができました。このため古い時代には琵琶湖の上をたくさんの船が行き交っていました。そのような中で荷物を安全に積み降ろせる港（津）はとても重要な地点でした。

塩津は琵琶湖の最北にある港であり、福井県の大きな海港である敦賀にもっとも近い港でもありました。北陸地方の物資を大津まで運ぶため、塩津は盛んに利用されたことでしょう。

若宮山古墳の近くにある港、尾上が使われ始めたのは古墳時代より後であると考えられていますが、長浜北部の琵琶湖の岸をさえぎる山が途切れる位置にあるため、古保利古墳群や若宮山古墳の周辺に住んでいた人々にとってはもっとも利用しやすい位置であるといえます。大津へ向かう時にはこのあたりから舟に乗ったのかもしれませんが。

若宮山古墳、塩津丸山古墳は、ともに港のすぐそばではなく、港からのびる道をも見渡せる位置に作られています。湖上の交通と、陸上の交通が入れ替わる港で、両方の交通に対して影響力をもった人物が葬られた墓であったと考えられます。

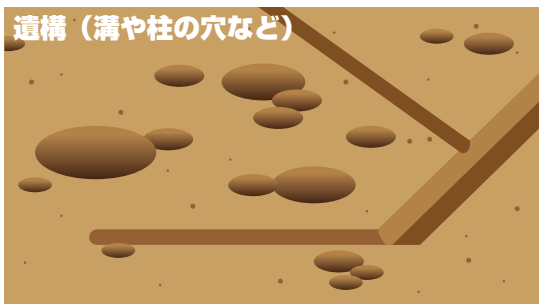
みなの
湖の港は
じゅうよう
重要だったのだ！



昔の人間が活動した痕跡こんせきが見られる場所を「遺跡いせき」といいます。
 そのなかで、建物の跡たてものあとや、溝みぞ、古墳しろあとなど、主に地面のこに残され、その場所から動かすことが難しいものを「遺構いこう」といいます。これに対して、昔の人がつくったり使ったりした土器もくせいひんや石器きんぞくきなどは「遺物いぶつ」といいます。遺物は動かすことが簡単かんたんです。これら「遺構」と「遺物」をあわせて「遺跡」と呼んでいます。遺跡は地面の下に埋まうまっていることが多いため、「埋蔵文化財まいざうぶんかざい」とも呼びます。

遺跡を調べることによって、昔の人がどんな家に住んでいたか、どんな道具を使っていたかなど、当時の生活や社会を知ることができます。ですが、遺跡を調べずに壊してしまうとそれを知ることは二度とできなくなってしまうのです。

このように、遺跡は文字で残された資料しりょうと並んで歴史を知るための重要な手がかりです。



遺物 (土器・石器など)



● 交通アクセス

塩津丸山古墳群

公共機関：JR 北陸本線「近江塩津駅」下車、湖国バス「岩熊口」下車すぐ

車：国道8号線「塩津」交差点を西へ約1km

若宮山古墳

公共機関：JR 北陸本線「河毛駅」下車、近江鉄道バス「山本山登山口」下車

車：国道8号線「速水北」交差点を西へ約 3.5 km

● お問い合わせ

ながはましぶんかざいほご
長浜市文化財保護センター

〒526-0802 滋賀県長浜市東上坂町 981 TEL 0749-64-0395